

ダウ工業株 30 種

2010.3.4

< 日足から想定される今後1週間程度の相場 >

日足は回帰値(緑色の実線)を僅かに下回る位置で短めの同事足(始値と終値がほぼ同値の足形)となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますが、5 営業日連続して上昇しつつある回帰値に絡んで推移していることから、ここから下放れて下値圏(水色の帯)へ向かう可能性よりも、上放れて高値圏(桃色の帯)へ向かう可能性の方が高いのかもしれない。

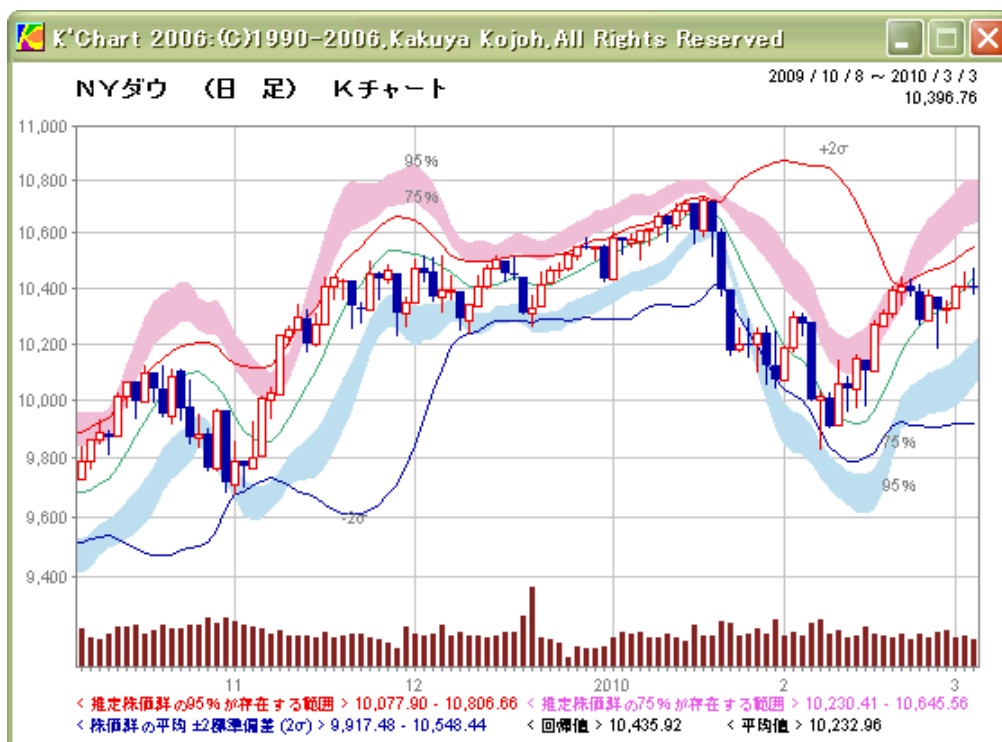
< 週足から想定される今後1カ月程度の相場 >

週足は回帰値を跨いで極短い陽線となっています。回帰値近傍での推移が3 週目となることから、今週末に回帰値を上回る明確な陽線となって終わるようなら、今後、高値圏へ向かう可能性が高くなります。逆に、今週末に明確な陰線となって終わるようなら、今後、下値圏へ向かう可能性が高くなると考えることになります。

< 月足から想定される今後3カ月程度の相場 >

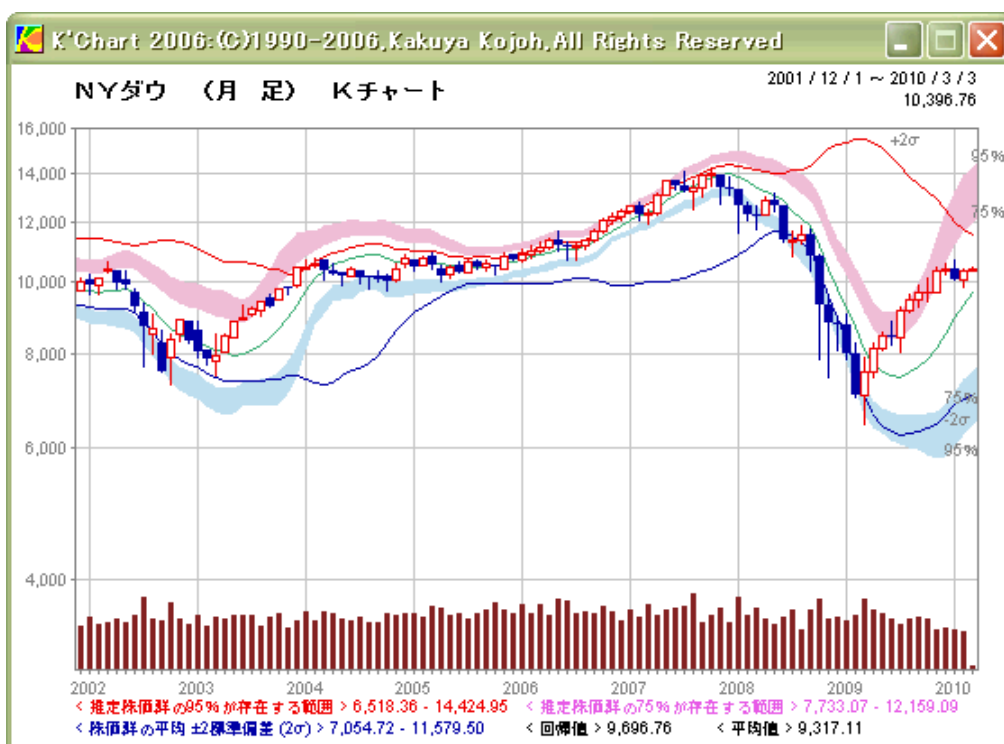
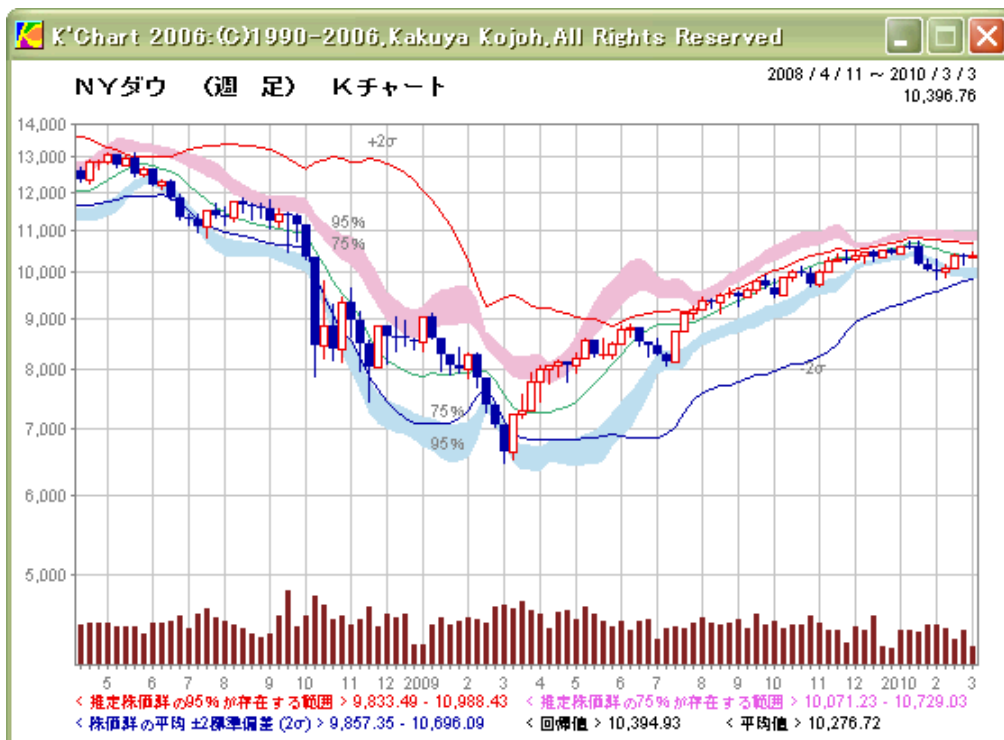
月足は回帰値を僅かに上回る位置で4本同事(始、高、安、終の4本値がほぼ同値の足形)のような陽線となっています。昨年12月に高値圏から下放れていることから、当面はこのまま横に這って揉み合う展開が想定されますが、回帰値は月毎に上昇しつつあるため、今、来月にも回帰値と出会うことになりそうです。

米国では、景気先行指数が過去のピークを更新し続けており、消費者物価も上昇するなど、景気回復が軌道に乗ったように見えますが、住宅着工件数は下げ止まったものの反発する勢いに乏しく、失業保険申請件数も高水準で推移しており、米景気の牽引車である個人消費が回復するには時間がかかりそうです。相場もそれを判定した推移となっても不思議はありません。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありません。事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。